

言語技術の効果的な活用・言語活動の充実を図った
国語科の授業実践例

坂町立坂中学校

- 1 学年・単元名 第1学年 漢字の部首
- 2 本時の目標 部首は漢字を組み立てている一部分で、決まった意味をもっていることが分かる。
- 3 本時の工夫点 部首について「形と意味」という視点を明確にして分類することで、漢字の特徴を理解させる。
- 4 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
1 学習課題の設定 ・目標の確認	部首のもつはたらきと意味を理解しよう。	
2 部首がもつ意味の理解 次の漢字をいくつかのグループに分ける方法を考え、発表する。 傾・恩・跳・雌・宙・逃避・躍・雄・宇・倒・恵	情報を的確に分析する技術 分類する視点を明示し、それぞれの視点で分類させる。 ・形が同じ部首で二字熟語を作らせる。 例：「同じ部分がある漢字で分けると『宇』『宙』です。」	
形や呼び方が変わっていても、もととなる字が同じ部首を、意味を考えてグループに分け、分けた理由を発表する。 泉・沼・泰・灯・烈・情 思・投・拳・複・装・切・刈	受け答えをする技術 根拠を明確にして述べさせる。 ・現れる場所によって形や呼び方は違うが、もとは同じ意味をもっていることに気付かせる。 例：「『泉』『沼』が同じグループです。理由は、両方「水」に関する字だからです。」	
部首についてその部首のもつ意味を考え、発表する。 陸・都・朝・胸・昔・書	受け答えをする技術 根拠を明確にして述べさせる。 情報を的確に分析する技術 分類する視点を明示し、それぞれの視点で分類させる。 例：「『胸』は、身体の一部を表す漢字の部首が使われていて、『朝』は身体の一部ではないので、違うと思います。」	・比較する観点を明確にして違いを書いている。
3 まとめ 漢和辞典を使って形が似ているが違う部首を見つけ、それぞれの意味をまとめる。 自己評価をする。 ・まとめで書いたものが、部首の意味をとらえているか、自己評価カードに書く。	・二つの部首の違いが明確になるように、辞書に書かれた説明を比較して書き直す。	